

# 愛ランドまつやま

発行：松山離島振興協会 / 文責：会長 田中政利

【お問い合わせ先】

事務局長 俊成雅直 Tel：997-2189 メール：airando-matsuyama@rhythm.ocn.ne.jp



荘厳な大鳥居



水面の灯り



♪  
宮島管絃祭  
夜の厳島に  
雅な調べ  
♪



広島が誇る世界遺産 宮島。みなさんも一度は訪れたことがあるはず。満潮時には海に浮かんで見える大鳥居へは、干潮時には歩いてその袂までたどり着くことができます。遠浅の浜で六本足を踏ん張り自立する迫力満点の姿は、だれもが知る日本の神社仏閣を代表する見事な景観としてあまりに有名です。

その宮島で夕方から深夜にかけ開催される夜の海の神事が、管絃祭という厳島神社の伝統行事です。その宮島管絃祭を見物してもらおうと、今回、松山離島振興協会が企画するのが『瀬戸内探訪クルージング』という催し。毎年恒例で開催している釣島灯台と旧灯台官舎を見学するツアーに、今回は宮島管絃祭の見物を組み合わせ、灯台と管絃祭、まさに瀬戸内の夜を彩る二つの名物を併せ楽しもうという企画です。そもそも管絃祭は、厳島神社の祖 平清盛が、都遊びとして貴族たちが舟で管絃を楽しむ習慣を、神事として取り入れたもの。都では池や河川が舞台であったものを清盛は、壮大なスケールの海の祭りとして確立させたのです。管絃祭は旧暦の六月十七日、大潮の日に執り行うこととされており、十二日前の市立祭を皮切りに一連の行事を行い、クライマックスとしてそのときを迎えます。御供船と呼ばれる大漁旗などの飾りを施した多くの船が各地から集まり、海上の安全と豊漁を祈願する、まさに海の民のお祭りなのです。

さて、旧暦の六月十七日は、今年は七月十三日。梅雨が明け、夏の暑さが始まる頃ですが、夏の海はとても美しく、その海が夕焼けから宵闇に包まれゆくトワイライトタイムに、幻想的な雅楽の調べに酔ってみませんか。今までに経験したことのない、幽幻の世界に浸りながら、平安の歴史絵巻を心ゆくまでお楽しみください。

お申し込みはいつもの石崎汽船 水野さんまで。電話は九五一・〇一二八、料金は中学生以上五千円、小学生は三千五百円です。ツアーの所要時間は十時から二十一時三十分まで。お問い合わせの上、ぜひ、ご参加ください。

# 写真家 浅田政志さんに行く

## 『忽那ロマン探訪クルージング』報告記



若手写真家の浅田政志さんをお招きし、忽那諸島の魅力をカメラに収めるツアーを五月十八日に開催しました。

しまのわ二〇一四の民間企画イベントとして、松山離島振興協会が実施したクルージングは、参加のみなさんに撮影いただいた写真で「島のフォトブック」を作成し、忽那諸島の新たなアピールにつなげていこうという試みも含まれており、カメラの持参が参加要件。中には、本格的な一眼レフカメラを構える参加者もいらつしやいましたし、巷で噂のカメラ女子もいました、いきました。世の写真ブーム、ブログやフェイスブック人気も後押ししているようですが、本当でした。

今回のクルージングでは、写真をテーマに、先の「フォトブック」への写真提供、カメラを使った「フォトラリー」なるウォーキング・ゲーム、そして極めつけは、プロの写真家さんによる「大集合写真撮影」を実施。ナビゲーター役をお願いしたのは、『浅田家』という家族写真集で一躍脚光を浴びた浅田政志さん。持ち前の明るくはじけたキャラクターで、今回のツアーを最初から最後まで、精一杯盛り上げていただきました。ありがとうございます。

さて、当日は絶好の行楽日和。そして、日差し具合もバツチりな

撮影日和です。松山観光港を出港した高速船は安居島をめざします。初めての方がほとんどという安居島への上陸。佐伯区長さんご夫妻が出迎えてくれ、さつそ



くに尾根伝いの道をウォーク。合間で絶景をフライング越しにねらうみなさん。思い思いの写真を撮るみなさんに収めず。海沿いの集会所で、みなさんを冷たいお茶と数種のひじき料理がお出迎え。名物の生ひじきは松山のブランド品。道後のふなやの料理長が太鼓判を押し、みやげコーナーで人気の逸品です。ひじき三昧のひとつとき。

みなさん、おみやげもじっくりと買い込み、安居島を後にしました。そして一行は中島へ、中島総合文化センターで浅田さんの写真講座のはじまり、はじまり。「写真は写り手の気持ちも大切」との浅田さんの写真論に引き込まれていくみなさん。講演後の販売では、南予で制作されたという写真集「南予写真NANYO」が一番人気。子どもたちはバリエーションの写真集、初の単行本はまさに講座の内容そのもので、受講記念に絶好の品。すべてのお買い上げ商品に丁寧にサインをする浅田さ

ん。一人ひとりとお話します。正午、お待ちかねの「しまめしバイキング」の時間。鯛飯、たこ飯、サザエ飯、ウニ飯、いなり寿司と、ご飯物は実に五種。汁物は鯛のすまし汁とたまごスープ。ずらつと並んだつぼ焼きサザエのデカさと、目の前で引かれる鯛の刺身の鮮度に驚くみなさん。サヨリのフライやじゃこ天、ひじき料理のほか、島では海ゾウメンと呼ばれるもずく酢も大人気。島のおもてなし料理に満足気なみなさんに主催者も安堵の表情。

そして今回、予想以上に好評をいただいたのが、「フォトラリー」のコーナー。地図におとし込まれた中島大浦・小浜地区の二十箇所のおもしろポイントを探しあて、その写真と同じアングルの写真を仲間と共に撮影してくるのがルール。それぞれの箇所には十ポイントから百点までの五段階の配点がされ、満点だと六五〇点を獲得できるのですが、制限時間はわずか九十分で、地理を心得た元気いっぱいグループでなければ回りきれないコースを設定。しかしみなさん、

おいしい料理で元気がついたのか、高得点が続出。そして優勝をかっさらったのは、なんと五六〇点のハイスコアを叩き出した二組。同点優勝の二組には、優勝賞

品の坊っちゃん島あわびと、二等賞品のカラマンダリンを半分こしていただきました。

そして、最後はメインイベントの「大集合写真撮影」。まずは、全員でしまのわのぼりを作成。しまのわの文字の周りに、今日島で見た印象的なモノを描いてもらいます。安居島の筍やひじきのほか、海をイメージさせる絵柄が所狭しと書き込まれます。十本ののぼりをスタッフを持ち、みなさんは浅田さんの「瀬戸内しまのわ」の掛け声に引き続き、二人一組で「わ！」とポーズを決めます。



何度もの挑戦を繰り返すうちに、みなさんの気持ちの乗ったしまのわポーズが堂々の完成。感動の瞬間でした。

こうして、終了した浅田さんとの、思い出に残るクルージング。下船後、一人ひとりを握手で見送る浅田さん。今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

## 子規さんも詠んだ島の名所を再検証する。



初めての登山者にはわかりにくい入口を指し示す看板

泊公民館の前には、正岡子規の『鶏なくや 小富士の麓 桃の花』の句碑がそびえます。まさに小富士山のお膝元ならではの光景です。

泊港から細い坂道を登ると山の中腹を走る農道に突き当たり、その道からさらに上へ進むと道は二股に。右へ行けば砂防ダムですが、よく見ると、左手を指し示す大きな木製の看板に気づきます。漆黒の墨文字で「小富士山登山道」と書かれ、松山離島振興協会の文字も確認できます。この矢じり型の看板は、平成二十三年四月に、当時、三度目の竹刈り作業を終えた協会の面々が立てたもの。それから三年の月日が経過し、今はやや風化し、傷みも目立ってきていますが、案内板としての役目はしっかりと務めてられています。

さて、その小富士山の竹刈り作業は着手から今年で六年目となり、平成二十一年の開始時から比べると、その景観は雲泥の差となり、特に釣島側を望む眺望は、登りの苦勞を吹き飛ばすのに十分な威力をもつて、みなさんを迎えてくれることでしょう。ただ、その登り道については、草刈りを行う程度で、これまで手を付けたことがないのが実情でした。

しかし今回、総務省の行う「過疎集落等自立再生対策事業」の採択を受け、難所となっていた登山道の整備を行う運びとなりました。自然の山のことでずから、なるべくは人工物に頼らず、山の石を使った自然な風合いのある山道にしたいと思っていますし、その作業についても、できるだけ興居島のみなさんにもご参加いただき、地元の宝を再検証し、再認識できる機会としたいと思います。

この地元のみなさんにお手伝いいただきたい作業については、草刈りや石集めなど三回を予定しており、募集については回覧等を使って、広くお知らせいたしますので、みなさんのお力添えをいただきますようよろしくお願いいたします。



## 第9回 定期総会 日程変更のお知らせ

去る6月1日(日)に開催を予定しておりました標記定期総会が、諸般の事情で日程変更し、みなさまにはたいへんご迷惑をおかけし、誠に申し訳ございませんでした。

変更後の日程は6月15日(日)となりましたが、会場は当初予定どおり、三津3丁目にあります地域交流センター、三津浜支所のある建物で開催いたします。当日は、会長・副会長の選挙、監事の選任などの人事案件のほか、平成25年度の事業報告及び決算報告、また平成26年度の事業計画及び予算案の審議等、盛りだくさんの重要案件が協議されることとなっています。会員のみなさまはもとより、賛助会員のみなさま、また島在住のみなさま方どなたでも傍聴可能ですので、お気軽にお越しいただけたらと存じます。

松山離島振興協会は平成18年4月15日の設立から丸8年を迎え、今後9年目の活動期を迎えます。現在開催中の「瀬戸内しまのわ2014」のイベントへの参加はもとより、他の団体の行う事業やイベントにも積極的に参加協力をを行い、忽那諸島全域の活性化に引き続き励んでまいりますので、今後とも、みなさまのご協力を賜りますようお願いいたします。

## 【地域産業部】

先日はクルージングを通じ、多くのみなさんに安居島を訪れていただき、誠にありがとうございました。特産品の『生ひじき』をたくさんお買い求めいただきましたみなさんに口コミいただければ、さらにその評判が広がることと期待しています。どうぞ、よろしく願いいたします。みなさんには、安居島フォトブックの作成に、数々の写真をご提供いただいていると伺っています。その完成を楽しみにするとともに、みなさんのまたのご来島を心からお待ちしています。

《お問い合わせ・お申し込み》  
理事 佐伯 遵也  
TEL992-0567



## 【観光振興部】

先日の『忽那ロマン探訪クルージング』では、参加のみなさんに中島大浦・小浜地区を探索する「フォトラリー」を楽しんでいただきました。みなさん、想像以上のがんばりで20箇所のポイントを歩かれ、地元の人でも知らないようなところまで見て帰っていただけたと、企画者の一人としてとてもうれしく思います。さて、あのラリー、その後問い合わせも多く、いまでは密かなブームになりつつあるとか。お問い合わせは、喫茶 ヒロまで。

《お問い合わせ・お申し込み》  
会員 豊田 渉  
TEL970-6140



## 【しまづくり部】

松山離島振興協会 興居島支部では、小富士山の登山道整備事業を行います。興居島の宝、小富士山の竹刈りに取り組んで早6年。その成果が着実に現れ、今では、多くの来島者が山頂をめざし登りゆく姿を目にします。もともと、伊予の名峰として認知されていた山だけに、その存亡を気にかけてこれまで取り組んできたわけですが、一定、その眺望が確保された今、その登り道の安全や快適さが気になり始めたところです。ところどころ急勾配があり難所となっているほか、生い茂った草で崖側が確認しづらい危険な箇所も見受けられます。初めて登る方には、あとどれ位くらいで頂上かということも気になるでしょうし、開けた視界から見える島の名前も知りたいところでしょう。また、どこかでは腰掛けたいと思われるに違いありません。

それらの点を含め、今回の整備事業で、より愛される小富士山をめざし取り組みますので、興居島のみなさんには、ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

《お問い合わせ・お申し込み》  
副会長 山本土人  
TEL961-2237



**忽那諸島の最新情報はHPチェックがいちばん！**

<http://island-matsuyama.com/>



☆ 松山離島振興協会は、会員のみなさんの会費によって運営されています☆  
☆ あなたも会員になって、いっしょに活動しませんか☆